

社会福祉法人 友愛十字会

ゆうあい

題字 初代総裁三笠宮崇仁親王殿下

2017

7・31

No.45



平成29年7月19日 納涼盆踊り大会 世田谷施設中庭にて

主 な 記 事

- 新しく友愛十字会の職員になったみなさんへ 理 事 長 小林 和弘
- 新入職員研修 教育委員会 陸田 光昭
- 55回目の夏！「来場者2500名の盆踊り大会」 . . . 地域連携検討委員会 宮崎 浩
- 施設紹介 世田谷更生館 砧ホーム
東京聴覚障害者支援センター 友愛荘
港区立障害保健福祉センター こども療育パオ 地域活動支援センター

新しく友愛十字会の

職員になった皆さんへ

社会福祉法人友愛十字会
理事長 小林 和弘



友愛十字会では毎年四月の初めに新入職員研修を実施しています。私もその中で、時間をもらって話をさせていただいていますが、今回は改めて我々の新しい仲間になった人たちに向けて書いてみたいと思います。

友愛十字会は昭和二十五年九月二十五日に発足して以来、実施事業を次第に拡大し、現在では都内五箇所において、十二の事業所、一つの指定管理事業を展開する状

況になっています。新しく友愛十字会の一員となった皆さんは、先ずはそれぞれの勤務場所で早く仕事に慣れていたいただきたいと思いますが、同時に、自分の勤務する施設や事業以外のことについても、何かにつけて思い出し、関心を寄せてほしいと思います。勤務場所もいつまでも今のところというわけではないのですから。

友愛十字会には総裁がおられることも頭においてほしい点です。これは社会福祉法人の中でもめったにないことで、現在は平成二十六年一月から第二代総裁の故寛仁親王殿下の次女であられる瑤子女王殿下が第三代総裁として就任いただいております。総裁は剣道の有段者という体育会系の行動派であり、秋の主要行事の合同運動会では実行委員長として毎年陣頭指揮を執っていただいております。

社会福祉施設や事業の運営の基本は対人サービス業であり、事業の成否はそこで働く「人」「人材」にかかっているといえます。職員皆さんがどれだけの知識、技術、経験、意欲を持って利用者に接しているかによって社会福祉施設や事業そのものの評価が決まるということです。皆さん方には是非そのような強い意識、プライド、責任感を持って取り組んでほしいと思います。もちろん、そのためには皆さん方に意欲を持つて働いてもらえるような職場環境づくりが必要であり、我々としても全力で取り組んでいきたいと思っています。

また、特に皆さんに意識してほしいのは、施設や事業を運営実施している地域との関係です。しっかりと地域に根付いて、地域の方々からその存在を認知され、その活動を評価されて初めて社会福祉

法人は成り立つということを常に頭に置いて行動していただきたいと思います。関連して触れておきたいのが新しい法人理念についてです。時間をかけた議論を経て平成二十八年に取りまとめを行ったのですが、この「共に生きる、感じる・創る・つながる」という新しい法人理念を是非皆さんも常に身近において繰り返しかみしめ自らのものとしていってほしいと思います。

福祉・介護専門職として現場で働く皆さんの苦労は相当なものがあ、現場経験の少ない新人のうちはなおさらのことです。くれぐれも健康に気を付けてほしいし、早く職場の雰囲気や流儀になれ、同僚やチームリーダー等からいろいろなものを吸収し、できるだけ早く友愛十字会の一員として必要な戦力となつてご活躍いただけることを切に希望しております。

新入職員研修について

教育委員会

委員 陸田 光昭

平成29年4月4日、新入職員研修を実施しました。今年度は33名の新入職員が研修に参加しました。

「友愛十字会によるこそおいでいただきました。世の中に様々な就職先がある中で、この友愛十字会を選んでいただきましたことを、心から感謝し歓迎いたします。」理事長の訓示は、新入職員に向けての暖かいことばで始まっています。続けて、法人の歴史や総裁について、社会福祉法人制度改革、セルフコントロール、報連相などについてお話しがありました。

退職される職員がいるその反面で、新しい職員が入職しており、いつの時代も人の循環があります。友愛十字会も毎年数十名の職員が入職しており、入職して1年経っていない職員を新入職員研修

の対象としております。ただ、法人全体で常勤職員約260人が在籍しており、16施設に渡る事業運営を行っており、職種は多岐に及びます。また、新卒者だけでなく中途採用者も多く採用しているため、経験や年齢も様々です。参加者に様々な違いがある中で、同じ法人の職員としての共通認識・意識を持ち、人の力の方向（ベクトル）を合わせることを大きな目的にしています。更には、施設や業種を超えた横のつながりを参加者同士で作ることをねらいとしています。研修内容は、理事長の訓示の他、法人のこれまで歩んできた歴史、組織や運営している事業の概要、法人理念、就業規則など、友愛十字会の職員として最低限身に付けておきたい内容の講義を1日掛けて行っています。

友愛十字会は、平成12年から教育委員会を発足し、社会福祉事業の更なる発展と福祉サービスの質の向上を目指して、人材育成に注力しています。教育委員会は、

経営会議で決定された教育に関する事業について、研修の企画・開催をしており、様々な継続的改善をしています。新入職員研修も、内容と開催方法について随時見直しが行われ、平成27年度からは法人の全施設合同で行う現在の形に変わっています。今後必要は見直しがされていくことと思います。

普段の職員教育は、上司や先輩などから業務を通じて行われています。また、職員個人の自己啓発も各施設長から促されています。教育委員会は、それらの普段の教



平成28年度 新入職員研修 港区障害保健福祉センターにて

育を補完できるような集合教育を職員研修として、これまでもこれからも検討を重ねていきます。友愛十字会に、今後も豊富な人材がありますように。

55回目の夏！

「来場者2500名の盆踊り大会」

地域連携検討委員会

委員長 宮崎 浩

世田谷施設では永い間、「盆踊り大会」、「合同運動会」、「文化祭（現在は友愛ふれあい祭り）」を法人の三大行事と称して、障害・高齢の各事業所から実行委員を選定し、法人として地域の皆様と一体となって取組むイベント作りに注力してきました。

平成26年からは、法人本部事務局を含む世田谷施設全体として地域への貢献を目指す「地域連携検討委員会」を発足し、この委員会の下部組織としてそれぞれのイベント開催に向けたワーキンググループを組織しています。単にイベントを開催することが目的ではなく、「ご利用者や職員一人ひとりが地域の一員として住民との交流を深め、互いに支え合う風土を醸成すること」が大切だと考えています。

特に、盆踊り大会は早くから最も地域に根付いた活動です。昭和36年に入職した石井参与の記憶では、「当初やぐらは無かったけ



準備風景「やぐら組み立て」

ど、敷地内の大きな桜の元に賑わったのは昭和38年からだと思う」とのことですので、今年は通算55回目の開催ということになります。職員が地域の皆様と炎天下に大粒の汗を流しながら、鉄骨のやぐらを組み立て、提灯付けや模擬店の準備等を進めると、初対面でも自然に打ち解けて世間話に花が咲きます。共同作業を通して互いに繋がっていくという実感は、イベントそのものの成功よりも大きな価値があると思います。過去の資料を探してみると本誌「ゆうあい」の第16号（平成8年4月発行）にも、この盆踊り大会のことを私が紹介しております

た（「ゆうあい」は創刊号からすべて法人のホームページでご覧いただけます）。何と21年ぶりのことです。そこで紹介したことは、今も変わりなく脈々と受け継がれていますので、今回は、この10数年間でバージョンアップした活動を紹介します。

まずは、地域の町会や自治会、商店街のお祭りに、踊りでの参加は勿論のこと、焼そばやポップコーン、スーパースポーツや駄菓子販売等の出店を、職員の有志を募り積極的に展開してきたことです。平成17年には、人気アニメーションの「アンパンマン」の着ぐるみを手作りし、地域の小さなお子さんにとっても喜んでいただけました。その仲間の「ドキンちゃん」や「バイキンマン」の着ぐるみも年々増え、大盛況で地域のお祭りにも出張しました。しかし、著作権を侵害する可能性があり止むを得ず平成28年以降は出場を取りやめることにしました。着ぐるみが変わって近年好評をいただいているのは、職員有志による踊りのパフォーマンスです。その年に流行した楽曲の振り付けを10名程の職員が日夜練習を重

ね、やぐらの上で披露しています（表紙の写真）。地域からのリクエストで出張する機会も増えています。法人の揃いの赤いハッピを作って町に繰り出したのは、平成26年からでした。また、今年は法人のマスコット「ゆうあいくん♪」をプリントしたTシャツもデビューしました。

私たちはこの砦の町の皆様から「友愛十字会がここにあって良かった」と思っていただけのことを目指していますが、この町に育てられている盆踊り大会を通して「友愛十字会がこの砦の町にあって本当に良かった」と私たちが思えることに心から感謝しています。



ゆうあいくん♪Tシャツ

社会環境の変化に

対応した施設へ

世田谷更生館

主任サービス管理責任者 吉岡一樹

昭和37年9月28日、入所者定員30名の身体障害者授産施設として「世田谷更生館」は設立されました。昭和43年には、定員14名で通所事業を開始、昭和47年には、芝浦更生館の廃止に伴い入所者定員が110名となりました。その後、友愛園の開所等により、入所者定員を削減し、平成20年10月「障害者自立支援法」に基づく事業移行を経て、現在に至ります。

現在は、就労移行（定員6名）就労継続B型（定員54名）の多機能型として運営しており、事業移行後は、障害種別を限定せずにご利用いただくようになりました。事業移行後9年が経過した現在では、身体障害の方が約50%、知的・精神障害の方がそれぞれ約25%となり、発達障害や難病の方にもご利用いただいております。

主たる障害種別を限定し、専門的なサービスを提供している事業所も多い中、当事業所は限定していません。そこには、利用者の皆様が、それぞれの苦手な部分を補い合いながら、長所や強みを活か

して活動していただきたいという思いがあります。

両事業の本旨は、それぞれ「就職」「高工資」と異なりますが、今後も、利用者の皆様が、「安全・安心」に「楽しく、笑顔で」お通いいただけるよう、職員一丸となつて日々邁進していく所存です。

最後になりますが、ご家族、ボランティア・関係機関皆様からの日頃のご支援に深く感謝申し上げますとともに、引き続きの温かいご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

平成29年6月8日～9日
課外訓練旅行



トリックアート美術館にて
(熱海)



生命の星地球博物館にて
(箱根)

介護ロボットの

モデル施設として

砧ホーム

介護部長 鈴木 健太

昨年の秋、「東京都ロボット介護機器・福祉用具活用支援モデル事業」の公募があり、都内約500カ所あるといわれます特別養護老人ホームの中から、唯一砧ホームがモデル施設として選定されました。それまで施設内で進めてきた福祉用具活用の取り組みの実績や組織的な推進力が評価されての結果であったと選考会に参加されたアドバイザーから伺い、砧ホームの潜在的発展能力の高さを改めて実感しております。

当事業において導入した介護ロボットは全3種類・計17台で、購入に際し都から525万円の補助を受けることができました。その内訳は、①介護ベッドの四隅に内蔵された加重センサーがベッド上の利用者の動作状況を感じ取る見守りロボットが10台、②居室内の高所に設置した赤外線センサーがベッド上の利用者の動作状況を感じ取り、職員が持つタブレット端末に

画像として送信する見守りロボットが5台、③職員が装着することで25kgまでの補助力を発揮し腰部への負担を軽減する装着型移乗介助ロボットが2台です。

現在、実際の介護現場で機器を使用した効果検証活動を推進中で、介護職員を中心に日々のモニタリングや毎月の評価と報告に奮闘しながら嬉しい悲鳴を上げています。介護ロボットのモデル施設として、砧ホームは、介護の未来を切り開く期待に添えるよう全力で邁進しています。



砧ホームスタッフ

一粒の米から

東京聴覚障害者支援センター
所長 高橋 秀志

皆さんは「無洗米」という、とがずに美味しく炊けるお米のことを聞いたことがあると思います。聴覚支援センターでは事業の一環として行われているバスハイキング事で、無洗米を製造している埼玉県にある会社「東洋ライス」を利用者・ボランティア・職員合せ27名で見学しました。

ここでは、全国から送られてくる各地のブランド米（一等米）を原料にした無洗米を製造しています。例えば、果物のブドウの皮をむくと裏側に果肉がつきますが、この部分に栄養価の高いものが含まれていると言われます。米も同様、米表面とヌカ（糠）の境に栄養と旨味が含まれ、一般的に市販されて

いる精米は、このヌカ（肌ヌカ）と言うのがうつつすらと残っている状態だそうです。この肌ヌカは脂肪酸が多いため酸化（劣化）されやすく旨味が落ちると言われます。普通ご飯を炊く前にこの肌ヌカを取り除くためにとぐのですが、美味しさも洗い流してしまいます。無洗米は製造工程の中で丁寧に肌ヌカを取り除いているため、米の表面を傷付けることなく旨味層が残っているわけです。

栄養価もビタミンB1や、血行を促すというナイアシンが普通米に比べ、2倍も多いそうです。健康にも良さそうです。また、チツソやリン等が川から海に多く流れ込むことで、アオコやヘドロ、赤潮等の水質汚染の原因にもなります。米のとぎ汁を出さずに済むことで環境改善にも一役買っているとも言え、水の節約も含め全国規模での家庭数で捉えると、小さな流れが大きな変化に繋がる気がします。

見学後、全員で無洗米の炊きたてを試食させていただきました。ふつくらとしたライスの風味は、言うまでもなくナイスでした。一粒の米は、毎日の食事に一考を与えてくれました。



工場でのお米の解説

友愛シネCafe

友愛荘
管理栄養士 田村 祥子

今年度から、新たなサービス提供として「友愛シネCafe」に取り組んでいます。

以前から「パン屋に行きたい」という利用者の要望があり、町田市で唯一の就労継続支援A型事業所「スワンカフェ&ベーカリー町田2号店」様に販売に来ていただくことになりました。焼き立てのおいしいようなパンが何種類も並んでいる中からお好きなパンを選び、コーヒーや紅茶とともに召し上がっていただきながら、大きなスクリーンで「男はつらいよ」の映画やコンサート、落語のDVDを鑑賞し、ゆったりとした時間を過ごしていきたいと思います。

参加された利用者様からは「パ



友愛カフェ 本日開店♪

ンが美味しかった、また参加したい。」「寅さんは面白いね。」と好評を得ています。日中活動の充実を図るとともに、地域との連携強化として新たに障害者就労支援事業所との交流に取り組み、ウェルフェアトレイドを推進する活動を行っています。



好きなパンを選んでます



鑑賞中

こども療育パオのご紹介

港区立障害保健福祉センター

こども療育パオ

施設長 田口 美登里

こども療育パオ（以下パオと言

う）は、港区で唯一のこども療育機関として、平成10年度に開設し、平成21年度から港区の指定管理制度により、友愛十字会が心身障害児通園事業、児童発達支援事業・重症心身障害児通園事業、療育相談などの管理運営をまかされている通園施設です。

パオでは、発達に遅れのある、あるいはその傾向がある乳幼児や児童（医療的ケアの必要なこども、発達障害、肢体不自由、知的障害、自閉症等）に対して、心身の発達を促し、日常生活に必要な「生きる力」の習得を目標とし、更に、家庭やこども達が地域で充実した日常生活が送れるように支援することを目的としています。

利用形態も様々で、週2日の親子通園、週3日・5日の単独通園（医療的ケア必要児も含む）、在宅訪問、地域の保育園や幼稚園に



砂場での活動風景



クリスマス会

在籍して月1回から2回程度専門職による、個別指導を行っています。他に小学生に対して学齢児グループ活動、保護者が一息つける一時保育というお預かりの事業も行っています。

通園のこども達は通園バスで、東京タワー付近の麻布、白金、青山、レインボープリッジのあるお台場などの港区内から、港区立障害保健福祉センター2階にあるパオに通ってきます。

支援内容は、一人ひとりの発達に合わせた遊び方を工夫し、家では経験できない遊びを通してこども同士や職員との小集団で人との関係を広げ、持っている力を発揮できるように支援しています。また、具体的な場面を通して、身のまわりのことを自分で少しずつできるようにしています。行事も親子で楽しめるよう企画しています。

す。また乳幼児支援にあたり保護者支援は欠かせません。個別相談は基より、保護者勉強会、就学・就園勉強会、同年齢の保護者同士の交流も含めた、「こっこの会」

「ひまわりの会」などを行い、保護者の意見も取り入れながら実施しております。

職員は、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士、理学療法士、社会福祉士、精神保健福祉士、保育士、幼稚園教諭、児童指導員、教諭、看護師、介護福祉士などの資格を持ち、それぞれの視点で発達の評価を行い職員相互で検討し連携しながら、お子さんの日常生活の自立と社会生活への広がり支援しています。

年々利用児も増加しており、職員はより専門性を求められております。これからも子ども達にとって、保護者の皆様や関係機関にとっても身近な相談機関として、パオと施設名が命名された由来のように、「皆が集う場所」となっていきたいと思っています。

サロン事業のご案内

港区立障害保健福祉センター
運営管理部長 田村 英治

港区立障害保健福祉センター地域活動支援センターではサロン事業を実施しております。

サロンは利用登録制ではなく、自由に参加していただける活動です。

これまで、「英会話」「フラワーアレンジメント」「アロマ」「ネイル」などを定期的開催するほか、クリスマスや七夕、端午

今後の予定

英会話	アロマ
8月21日	9月4日
9月11日	10月2日
10月16日	11月17日
11月6日	12月15日
12月4日	

フラワーアレンジメント



の節句など、季節の行事にあわせて折り紙などを作って、センター内の飾り付けをしたりしています。ゆつくりしたい方は、お茶を飲みながらお喋りするだけでも参加できます。

これまで参加された方は、年齢も様々で、港区の昔の話から最新のイベント情報、花見をするならあそこの桜が綺麗だよ！など情報交換する場にもなっています。スケジュールの一部を今回お知らせしますが、センター内にも掲示しておりますし、電話でお問い合わせいただいてもかまいません。是非一度、地域活動支援センターのサロンにお立ち寄りください。

上記のほかにも活動しております。お問い合わせください。

電話 03-5439-2511

善意のかずかず

次の方々から利用者及び施設に申しまして、奉仕等をお願いし、また、善意の金品のご寄贈を頂きましたことに対して、心より御礼申し上げます。
(平成29年2月1日〜平成29年6月30日)

奉仕活動

○世田谷更生館

青山 健児
秋山 一代
石合 幸雄
伊藤 幸子
大島 公子
金子 伸恵
黒木 和江
小林 真太郎
佐々木 栄子
原岡 美菜
樋口 美之
平岡 宏子
福永 佳代
前園 陽子

○砧ホーム

早田 由貴子
深井 真理子
山下 ヤス
山田 たき子
米田 恵子
グループたんぽぽ
天理教北多摩支部
学校法人山野美容学院
若竹会

○友愛園

市毛 美和子
栗原 和子
高木 信子
成田 千賀子
箕輪 千賀子
萩田 千賀子
慶應義塾大学
ライチウス会
天理教
北多摩支部

○友愛デイサービスセンター

岸井 豊子
久保山 由美子
小島 修治
山川 敏江

○友愛ホーム

末木 江津子
高安 瑠璃子
棚網 純子
中山 康子
馬場 武子

○砧デイサービスセンター

梅津 三千代
小野 栄子
坂井 知子
寿乃田 雅子

○友愛荘

石川 信子
(バラの会)
加藤 剛
河端 喜美子
木城 守子
斉藤 妙子
佐藤 君子
長尾 さな江
野口 喜伊子
宮坂 貴三子
武藤 春代
望月 紀子

○東京聴覚障害者支援センター

青野 美重子
浅川 高文
石塚 小百合
石原 夕貴
井上 睦
奥村 誠美
金井 智代
鈴木 信明
曾輪 恵美子
道下 恵美子

○砧あんしんすこやかセンター

清水 校子
田中 信子
輝 真理子
西多 法子
野崎 眞喜子
橋本 福二
深野 木馨
間瀬 紘子

○港区立障害保健福祉センター

矢口 里子
山崎 芳男
山本 美智子
渡辺 喜美代
グループ・そらまめ
桜美林幼稚園
桜台保育園
山崎友好会

○友愛園

(株)福祉施設共済会
天理教東京教区婦人会
山岸 眞由美

○友愛ホーム

馬場 カツ
柳田 とみ子
砧教会・教会学校
作田 啓子

○東京聴覚障害者支援センター

糟谷 昭雄
堀江 承元

○友愛荘

荒木 淳子
大矢 富美江
相馬 佳子
村野 愛子
木曾三寿クラブ
(敬称略)

寄付金

○本部

職員異動

(平成29年3月1日)
平成29年6月30日

○昇任

港区立障害保健福祉センター
センター長 松本 光正
(地域活動支援センター施設長)
港区立障害保健福祉センター
地域活動支援センター
施設長 小泉 貴宏
(友愛ホーム養護部長)

○併任

港区立障害保健福祉センター
統括施設長 松本 光正

○退職

港区立障害保健福祉センター
センター長 田城 利明

編集後記

平成29年もあっという間に半ばを過ぎ、正月よりも大晦日の方が近くなりましたが、暑さと格闘する毎日にもその実感ありません。ついこの前まで夏が恋しかったのは、そして冬が待ち遠しいのは、小生だけでしょうか。

さて、次号は平成30年1月に発行の予定です。リレー方式の法人事業所紹介もまだまだ周回前ですし、各委員会の活動紹介なども新たに企画していきたいと考えています。どうぞお楽しみに！



ゆうあい編集委員会 副委員長

砧ホーム

介護部長 鈴木 健太

ゆうあい 第四十五号

平成二十九年七月三十一日

発行 社会福祉法人友愛十字会
発行人 金井 博
所在地 東京都世田谷区
電話(〇三)三四一六・三二六四
http://www.yuai.or.jp